

「福祉ドレイ工場の闘い —立ち上がった障害者たちは」

映 画 「人間を取り戻せ！ 大久保製塩闘争の記録」

話し手 長崎 広さん

(全国一般東京東部労組副委員長・大久保製塩支部副委員長)



このべんきょう会は、障害者が地域で働くというテーマをきっかけにしながら、障害のない人の働き方や暮らし方を含めて、フリーに語り合おうという会です。1回、1回、話し手をお願いし、そのお話を口火にしておしゃべりしますので、初めての方でもどうぞおいで下さい。

今回は、日本の働く障害者の運動の草分けというべき大久保製塩の闘いを学びます。

終了後お時間のある方は、近くので、おしゃべりの続きを楽しみましょう。

4月20日(金) 18:00~
参加費無料(カンパ歓迎)

越谷市中央市民会館

5階 第5会議室

手話通訳有

終了後希望者は懇親会へ

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

048-964-1819 (職場参加ビューロー世一緒)

第52回 共に働くまちを拓くべんきょう会



第52回 共に働くまちを拓くベンキョウ会

映画「人間を取り戻せ！大久保製塩闘争の記録」

話し手 長崎 広さん

(全国一般東京東部労組副委員長)

・大久保製塩支部副委員長)

四〇年前、就学免除で家の奥で大人になった越谷の障害者達が、わらじの会を作り、周りの人達の手を借りながら、初めて電車に乗って街に出たころのことです。その活動を積極的に応援してくれた越谷市職員組合の人達に誘われて、大久保製塩検査課労組のデモに参加しました。

その日のことを、ある女性障害者は、「大久保製びんのみんなが自分のいいことをいった。：みんないっしょけんめい働いているのに、お金をやらないで、みんな工場の人があずかってしまっただって。それも頭に来た。」と書いています。当時、福祉モデル工場として、障害者や家族、教育・福祉専門家の希望の星とすらみなされた職場の内部からの告発は、ほんとうにショックでした。

ここ十数年、雇用や福祉の制度が拡充し、差別解消法や虐待防止法などもでき、国を挙げて「地域共生社会」が謳われています。私たちも、共に働く街を切り拓くために、こうした制度を必要に応じて活用しています。たしかに、時代は変わりましました。でも、ほんとうに、四〇年前の差別・虐待とそれに対する闘いは、もう過去のことと考えていいのでしょうか？

前にこのベンキョウ会やシンポで、大企業で働く聴覚障害者から、一緒に残業して働きたいのに早く帰されるし、何年働いても給料は上がらない、組合にも入れない、「ダイバーシティ」を目玉にしている会社なのに：などの訴えがありました。ここでは知的や精神の障害者は、特例子会社で働いているとのこと。きめ細かく分け隔てられているために、こうした声が伝わらず、実態が見えないのです。

さまざまな人が一緒になって働きたいのある、人間らしい職場をつくってゆくとめに、私たちは「障害者の職場参加」が大切だと言ってきたし、今月から就労移行支援事業所を立ち上げました。

大久保製塩の闘いは、かたちを変えながら持続しているそうです。映画とお話を通して、この四〇年の職場・地域の歴史を、と一緒に学びたいと思います。

4月20日(金)

18:00~

越谷市中央市民会館
5階 第5会議室

会費：無料
(カンパ歓迎)

手話通訳有

(終了後、時間のある方は
懇親会でおしゃべりしま
しょう)

NPO 法人障害者の職場参加
をすすめる会

048-964-1819

職場参加ビューロー一世一緒